



The 28th Seminar of Tohoku Clinical Oncology Research and Education Society

東北臨床腫瘍セミナー

第28回

2018.11.17 (sat)
12:40 ~ 16:00

宮城県医師会館 2F
「大手町ホール」
仙台市青葉区大手町1-5
TEL: 022-227-1591

プログラム

開会の挨拶	12:40-12:45	福島県立医科大学医学部 河野 浩二 先生
教育講演 1	12:45-13:10	『ゲノム医療－入門編』 《座長》弘前大学医学部附属病院 坂本 義之 先生 東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 准教授 高橋 雅信 先生
教育講演 2	13:10-13:45	『がん化学療法変更・中止時期における意思決定支援－看護師の立場から－』 《座長》宮城大学 菅原 よしえ 先生 石巻赤十字病院 地域医療連携課 がん看護専門看護師 菅野喜久子 先生
教育講演 3	13:45-14:20	『外来がん化学療法における薬薬連携について～保険調剤薬局薬剤師の立場から～』 《座長》白河厚生総合病院 竹村 真一 先生 株式会社フレンド フレンド調剤自治医大東店 本田 泰斗 先生
——— 休憩 ———		
話題	14:30-15:00	『胃癌治療ガイドラインの改訂ポイント』 《座長》山形県立新庄病院 石山 智敏 先生 山形大学医学部附属病院 腫瘍内科 病院講師 福井 忠久 先生
特別講演	15:00-15:55	『免疫チェックポイント阻害薬の開発状況とirAEについて』 《座長》福島県立医科大学医学部 河野 浩二 先生 国立がん研究センター中央病院 先端医療科 北野 滋久 先生
閉会の挨拶	15:55-16:00	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 秋山 聖子 先生

当日は、会費（医師¥1,000、メディカルスタッフ¥500）を集めさせていただきます。
※本セミナーは日本医師会生涯教育講座3単位の認定を受けております。
※本セミナーは外来がん治療認定薬剤師認定のための講習会（研修会）として2単位の認定を受けております。
※本セミナーへの参加は認定看護師認定更新審査の研修実績及び研究業績等として申告できます。

- 共 催 NPO 法人東北臨床腫瘍研究会 / 大鵬薬品工業株式会社
- 後 援 宮城県医師会 / 東北大学医師会 / 東北病院薬剤師会 / 宮城県看護協会 / 東北次世代がんプロ養成プラン
- 事務局 【お問い合わせ】石川 徹 / 東北大学加齢医学研究所内 TEL・FAX: 022-717-8599

特別講演 『 免疫チェックポイント阻害薬の開発状況と irAE について 』

北野 滋久 先生 国立がん研究センター中央病院 先端医療科

1998年 7月 1日	三重大学医学部卒業後、同大学内科学第二講座 研修医
1998年 10月 1日	厚生連鈴鹿中央総合病院 研修医
2000年 4月 1日	同 内科医員
2000年 7月 1日	松阪市民病院 内科医員
2005年 4月 1日	三重大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫細胞治療学 助手
2008年 1月 1日	三重大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 診療助教
2008年 10月 1日	三重大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科 助教
2009年 10月 1日	米国ニューヨーク市 Memorial Sloan-Kettering Cancer Center Visiting Investigator
2013年 3月 15日	国立がん研究センター早期・探索臨床研究センター 先端医療科 (TR グループ 免疫療法開発分野併任) 医員
2015年 4月 1日	国立がん研究センター 中央病院 先端医療科 医員 先端医療開発センター 新薬臨床開発分野/免疫療法開発分野 併任

<講演内容>

近年、免疫チェックポイント阻害剤の適応拡大がすすみ、がん薬物療法の一つとしてがん免疫療法が実地臨床に実臨床に導入されてきている。同剤の単独療法においては、承認されている固形腫瘍の多くで奏効割合は 15-40%程度にとどまり、さらなる治療成績の向上が望まれる。現在、開発が先行している免疫チェックポイント阻害剤を軸とした併用療法の早期臨床開発が積極的に行われている。免疫チェックポイント阻害剤同士の併用、免疫賦活剤との併用、代謝阻害薬、エピジェネティクス修飾薬、放射線治療などの併用療法が積極的に試みられている。

また、免疫チェックポイント阻害剤の投与により、自己免疫疾患様の副作用である免疫関連有害事象 (immune related Adverse Event ; irAE) が報告されている。自己組織・細胞を認識するリンパ球が免疫チェックポイント阻害剤により誤って活性化されることよって自己抗原に反応する T 細胞受容体を持つ CD8 陽性 T 細胞による自己の細胞・組織の破壊に加えて、CD4 陽性 T 細胞から B 細胞 (→形質細胞) を介した自己抗体産生を機序とする有害事象も存在すると考えられている。自己と非自己の識別に関わる Major Histocompatibility Complex (MHC) のうち、Class I 抗原は全身の正常細胞のほぼ全てに発現しているため、irAE が体内のどこに生じるかを事前に予測することは困難である。皮膚障害、肝障害、胃腸障害、肺臓炎、神経障害、筋炎、内分泌障害 (甲状腺機能低下、副腎不全、下垂体炎、1 型様の糖尿病) など全身多岐にわたる。悪性黒色腫や非小細胞肺癌では、irAE の発症と治療効果との相関についても報告されている。irAE の発症予測についての研究が求められており今後の報告が待たれる。

宮城県医師会館 アクセス MAP

地下鉄東西線「大町西公園駅」西 1 番出口から徒歩約 1 分

※会場の駐車場はご利用いただけませんので、公共交通機関をご利用ください。

